ASAHI GAWASOU DAYORI

笑顔と活気にあふれた「卓球バレー交流大会 in OKAYAMA」(2面に関連記事)

旭川荘だより

vol. 252

2019.11.01 発行

CONTENTS

P3　警察学校初任科生がひらたで研修
P4-5　長年にわたりボランティア
P6　せとうち旭川荘 10年のあゆみ冊子に
P8　きらぼし★アート展で20作品紹介

発行／社会福祉法人 旭川荘
〒703-8555 岡山市北区祇園866
TEL 086-275-0131 FAX 086-275-5640
http://www.asahigawasou.or.jp

環境福祉フェアでエコストラップ作りを体験する子どもたち(6面に関連記事)

実りの秋、芸術の秋本番

理事長　末光　茂

実りの秋本番です。今、障害のある人たちの芸術文化活動の新たな展開が、国内外で注目されつつあります。

「きらぼし★アート展」は、山陽新聞社会事業団の創立70周年記念事業の一環として、2年前にスタートしました。今年の第3回は、岡山障害者文化芸術協会の主導により、地域に開かれた形でのチャレンジが具体化しました。

まず、岡山市表町商店街での「表町・街なか美術館」。選ばれた作品を店先に展示し、アーケード天井からの大きなバナーに印刷された絵は、買い物客たちの目を引きました。

10月5日には、玉野市産業振興ビルに展示場を移し、東京、滋賀、岡山で活躍する支援者による講演会と映画会も催されました。

さらに、「上海・岡山障害児者絵画交流展」が、12月3日から8日までの間、上海呉昌碩記念館で初開催されます。日中両国の代表作各30点程度が展示され、日本からは第1回と第2回「きらぼし★アート展」の作品21点と、旭川荘からの10点が出品されます。

もうひとつ、11月にはメキシコのメリダ市で、「Deep Down Arts」展が初開催されます。世界の約20か国からダウン症者の作品が一堂に会します。日本からは3点で、旭川荘のデイセンターあかしやの2人の水彩画と、大分市在住の女性の織り絵作品が展示されます。

国際舞台での晴れ姿を楽しみにしています。

なお、こうした国際展の草分け的な存在としては、2003年から始まった林原共済会主催の「林原国際芸術祭“希望の星”」があります。2008年には障害のある作家それぞれにとっての「モナリザ」を描く公募企画を行い、日本、韓国、中国、香港、シンガポールから選ばれた55作家の作品が展示され、国内外を巡回しました。

岡山県食品卸同業会のご寄付による「旭川荘アートギャラリー」が開館したのが2010年。関係者のご協力に報いるためにも、この分野のさらなる発展に貢献したいと考えています。

卓球バレー交流大会 香川、鳥取からも参戦

旭川荘の施設で広がりをみせている卓球バレーで交流を深めようと9月20日、「第2回卓球バレー交流大会 in OKAYAMA」が旭川荘療育・医療センターの多目的ホールで開催され、荘内施設8チームと香川県と鳥取県から5チームが参戦しました。

交流大会は昨年、卓球バレー全国交流大会へ旭川荘チームが出場するのをきっかけに行われ、今回で2回目。荘内からは前回参加の竜ノ口寮、いづみ寮、のぞみ寮の各チームと愛育寮・あかしやの合同チームに加え、たかはし松風寮、せとうち旭川荘、わかば寮、吉備ワークホームが新たにチームを編成。出場全13チームの選手や審判、補助者など合わせると約120人が集まりました。

試合は2ブロックに分かれて各チーム予選リーグで2試合戦い、勝ち点制でブロック内の順位を決定。その後順位決定戦、決勝戦などが行われました。旭川荘のチームは香川、鳥取のチームの戦術やテクニックに圧倒されながらも、カウンターから華麗にスマッシュを決める場面も。得点が入るたび、控えの選手や応援の職員から大きな歓声が上がっていました。

Tシャツを白で統一し、チームワークを高めるチーム松山

得点が入り喜ぶ吉備ワークの選手たち。観客も大いに盛り上がった

結果は香川県の「香川オリーブA」が優勝、鳥取県の「トリピーチームB」が準優勝。荘内チームは「チーム松山」が6位入賞と初参戦ながら健闘しました。交流大会に初めて参加したのぞみ寮の横山達雄さんは「卓球バレーは暇つぶしに始めたけど、やっているうちに本気になる。他のチームと戦うといい刺激がもらえる」と笑顔で話します。

警察学校初任科生　ひらた旭川荘で研修
知的・発達障害のある人とのコミュニケーションを学ぶ

知的障害や発達障害について学び福祉への理解を深めるため、岡山県警察学校（岡山市北区玉柏）の初任科生59人が9月2日、ひらた旭川荘を訪れ講義を受けました。

福祉施設での研修は授業の一環として実施されており、ひらた旭川荘での受け入れは3年目。初任科生は障害者施設だけでなく、高齢者介護施設でも同様の研修を行い、社会的な支援が必要な人たちへの対応を勉強しています。

この日は、わかくさ学園の新谷義和園長が知的、発達障害の特徴とコミュニケーションのとり方について講義を行いました。新谷園長は冒頭「知的、発達障害は生まれつきの障害。障害を個性と捉え、どう手助けをしたらいいか知ってもらいたい」と話し、知的障害の人は抽象的な表現が理解しにくいので、「少し待って」ではなく「5分待って」と具体的に伝えることや、発達障害の人は物事の全体を把握することが難しいので、スケジュールを提示して、見通しを持てるように伝えるとコミュニケーションがスムーズに行えることなどを紹介。初任科生たちはメモを取りながら熱心に講義を聞いていました。

その後わかば寮へ移動し、軽作業の様子を10人ずつの班に分かれて見学。利用者は洗濯機が動いている間の時間を使って、桃などの果実を箱詰めするときに使用する緩衝材ネットをたたみ、束にする作業をしており、初任科生たちは利用者の丁寧な仕事ぶりに見入っていました。

引率していた田邊佳男教官は「警察官はさまざまな立場の人に接する仕事。今日の研修を生かし、障害のある方々の人権に配慮した対応を取れるようになってもらいたい」と話します。

講義を聞く初任科生たち。手を上げて発言する場面も

小幡所長が上海市の白玉蘭記念賞を受賞

日中・アジア医療福祉研修センターの小幡篤志所長が9月12日、中国・上海市から「白玉蘭記念賞」を授与されました。この賞は上海市との友好交流や技術提供に功績のあった外国人などに対して上海市が授与するもので、旭川荘における受賞者は江草安彦前理事長（1994年）、板野美佐子元常務理事（2007年）に続いて3人目となります。（なお、江草先生はその後さらなる貢献を評価されて1997年に上海市栄誉市民の称号を授与され、板野氏は2012年に白玉蘭栄誉賞を授与されています）

表彰会場で賞状を掲げる小幡所長

小幡所長は2011年以降、上海市との交流事業において介護保険制度の講義などを行うとともに、2014年には江草先生と上海市民政局長との合意に基づき同市に贈呈した「中国語版　初級介護教科書」の編集を担当。2016年からは同センター所長として、上海市からの研修生の受け入れや上海市での講演会の開催などの企画運営を行ってきました。

上海市浦東新区の上海東方芸術センターで行われた授賞式には58人の外国人らが出席。上海市幹部から次々にメダルと賞状が授与されました。受賞者のうち日本人は6人で、福祉分野では小幡所長が唯一の受賞者でした。

小幡所長は「この賞は私個人への表彰ではなく、旭川荘と上海市の30年以上の友好交流に対する表彰と考えている。今年12月には上海市で障害児者の絵画交流展の企画もあり、今後は認知症高齢者の介護や発達障害へのケアなど、新たな社会的課題も包摂した交流を進めたい」と話しています。

35年以上にわたり理容・美容ボランティア 岡山の2店　吉備ワークホーム

35年以上にわたり月に1度、岡山市内の理容室、美容室の皆さんが吉備ワークホームを訪れ、無償で散髪（カット）のボランティアを続けています。車いすを使用するなど身体に障害のある利用者にとって、街中の理美容室に通うのはハードルが高く、毎回の訪問を多くの利用者が心待ちにしています。

理容室は「ヘアーフェイス　ヤマオカ」（岡山市中区国富）。1983年ごろ、オーナーの山岡多計二さんが「吉備ワークが散髪奉仕に来てくれる人を探している」との相談を同業者から受けたのがきっかけでした。妻の知子さんは「市内の理容室の中ではスタッフも多く、当時は10人近くいた。うちでお役に立てるなら、と活動を始めた」と振り返ります。

毎月1回、月曜の定休日を利用して、多計二さんと知子さんがスタッフ数人を連れて吉備ワークでの散髪ボランティアをスタート。入店間もない新人や若手のスタッフにとって、ボランティアは理容師としての経験を積むよい練習の機会でもあったそうです。

現在、多計二さんは仕事を引退していますが、知子さん

ヘアーフェイス　ヤマオカ

障害のため同じ姿勢を保持するのが難しい人も。ヤマオカのスタッフの皆さんが手際よく髪を整えます。

知子さんの孫娘、美来乃さんは理容師免許を取ったばかり。活動は世代を超えて引き継がれています。

カットをする山岡知子さん。「長く活動を続けられるのも、皆の協力があるから」とスタッフを労います。

髪形スッキリ　飲み物でリラックス
ルポ　かえで寮の理容・喫茶ボランティア

玄関を入ると軽快なはさみの音が聞こえてきました。すぐ隣の食堂からは芳醇な焙煎コーヒーの香りが漂ってきます。重い知的障害のある人たちが暮らすかえで寮。毎年9月に理容・喫茶ボランティアが行われていると聞き、訪れました。　（広報委員　川田明奈）

取材したのは9月9日。2008年に全国理容生活衛生同業組合連合会が9月の第2月曜日を「理容ボランティアの日」と決めたのをきっかけに、岡山県理容生活衛生同業組合岡山ブロックの皆さんがかえで寮で散髪のボランティアを始めました。さらに2013年からは、この活動に賛同した岡山県喫茶飲食生活衛生同業組合の皆さんも合流。この日は理容ボランティア17人と喫茶ボランティア3人が参加しました。

バリカンを使って安全に手際よくカットをする理容師さん。いすに長く座っておけない利用者には数人で対応し、短時間で終わらせてくれます。

事務所そばの広い部屋には、パイプいすを6席並べてカットスペースに。利用者が席に着くと、理容師さんが一人一人の髪形の希望やバリカンを使っていいかなどを支援の職員に確認し、軽やかなはさみさばきで髪をカットしていきます。初めは慣れない雰囲気に表情がこわばっていた利用者も、理容師さんたちから「すぐに終わりますよ」「大丈夫ですよ」と優しく声をかけられ、徐々にリラックス。カットが終わるとスッキリとした髪形に満足げです。

「施設にいるから『髪が短くなればなんでもいい』という人もいるが、自分で表現するのが難しい人こそ、理容師が似合うスタイルにカットしなければ」と県理容生活衛

がスタッフとともに活動を継続。男性を中心に毎回15～25人の散髪を担当しています。初期のころから活動にかかわってきたベテランスタッフもいて、親しくなった利用者が外出の際に店を訪ねてきたことも。散髪をしてもらう利用者のリラックスした表情に、長年の交流を通して培われたヤマオカの皆さんへの信頼がうかがえます。

美容ボランティアは「ママ美容室」（岡山市南区海岸通）の岩井章恵さんと娘の一恵さん。約35年前、理容室を経営するかたわら、市内の児童養護施設で散髪奉仕をしていた夫の晋（すすむ）さんが、吉備ワークが募っていたボランティアの話を同業の友人から聞き、章恵さんに伝えたのが活動のきっかけになりました。

「私も夫も父親を早くに亡くし、母子家庭で育った。これまでに多くの人から受けた恩を、社会にお返ししたいという思いがあった」と語る章恵さん。独りで活動を始めた章恵さんのサポートに晋さんが付き添っていた時期もありましたが、大阪で美容師修行をしていた一恵さんが帰岡した26年前からは、母娘で活動に取り組んでいます。

2人が担当するのは毎回10人前後で、ほとんどが長年の常連さん。カットをしながら、最近流行のファッションや美容のこと、街中の様子…など、おしゃべりが弾みます。母と娘の漫才のようなやりとりに、皆で大笑いすることも。「『次はいつ来るの』と訪問を楽しみにしてくださるのが嬉しくて」と一恵さん。章恵さんも「いろんな話をしてカットを終えると、皆さん表情が明るくなる。元気になってもらうことが私たちの喜び」だと言います。

吉備ワークホームの三宅律子所長は「入所利用のほぼ全員が2店のお世話になっていて、来てくださるのを皆楽しみにしている。障害のある人の対応にも慣れていて、利用者ともいい関係が続いている」と長年のボランティアに感謝しています。

ママ美容室

活動の時にはお洒落をするよう心掛けるという岩井章恵さん。「利用者さんが『街にはなかなか出掛けられないけれど、先生の恰好を見ていると流行りのファッションが分かる』と喜ばれるので」。

章恵さん（奥）とともに活動を続ける一恵さん（手前）。「お店に来られる障害のある方、高齢の方にどう対応すればいいのか、ここでの体験から学ばせてもらっている」と語ります。

生同業組合理事長の中原一郎さん。「散髪後の晴れ晴れとした顔を見ると嬉しくなる」と目を細めます。理容師さんたちは男性はバリカンでサイドを短くしたり、女性は後ろ髪をはさみで揃えたりと髪質や年齢、顔立ちからその人に似合うスタイルにカット。2時間かからず34人の利用者の髪形を整えました。

散髪が終わると利用者は職員の誘導で食堂へ移動。喫茶ボランティアの皆さんが「いらっしゃいませ」と笑顔で迎えてくれます。メニューはオレンジジュース、アップルジュース、焙煎コーヒーの3種類。中でもコーヒーは組合が提携している焙煎珈琲専門店でいれたもので“おすすめ”とのこと。「何にしますか？」と利用者に尋ね、紙コップに入れて提供してくれます。紙コップで飲むのが難しい人には利用者の“マイカップ”を使い、熱いコーヒーが苦手な人にはあらかじめ冷ましておいたものを出すなどの配慮も。「髪形、素敵ですね」と声をかけられて、照れながらも嬉しそうな表情の利用者たち。特に女性の利用者たちは“お茶会”を楽しんでいるような和やかな雰囲気で、美味しい飲み物と気さくに話しかけてくれるボランティアさんたちに癒されているようでした。

並んで散髪をしてもらう利用者たち。いつも過ごす場所でカットしてもらえるので、落ちついて受けられます。

お代わりの注文や長居する利用者も。笑顔で接客してくれる喫茶ボランティアさんと楽しい時間を過ごします。

かえで寮の荒木隆志課長は「慣れた環境なので不安になる利用者さんも少なく、安心しているのが伝わってきた。かえで寮に継続して来てくださるのは本当にありがたい」と話します。

環境福祉フェア　バザーなどにぎわう
学院「結び祭」も同時開催

買い物客でにぎわうバザー

環境保護や福祉をテーマにした地域交流イベント「第12回旭川荘環境福祉フェア」が10月26日、旭川荘結びの杜で開催され、地域住民らが多数訪れました。

荘内の関係施設のほか、豊学区愛育委員会、岡山市環境事業課など11団体が参加。会場には、旭川荘が夏の省エネ対策として取り組むグリーンカーテンの写真展示や、食品ロスの削減を呼び掛ける啓発パネルの展示のほか、廃材・端材を活用した木工教室、エコストラップ作りなどのブースが設けられ、来場者が次々と体験。日用品を格安で販売する恒例のバザーにも、開幕と同時に掘り出し物を探す主婦らが詰めかけました。

荘内の障害者施設で作った手芸品や花苗などの販売コーナーでは、マイバッグ持参の買い物客にクッキーのプレゼントも。子ども向けのお菓子のプレゼントやポニーとのふれあい＆乗馬体験などもあり、親子連れの人気を集めました。

また、旭川荘厚生専門学院吉井川キャンパスの学園祭「結び祭」も同日行われ、学生たちが仮装パレードやステージ発表、お楽しみ抽選会などを企画。カレッジ旭川荘でもカレッジ生らが喫茶や缶バッジの製作・販売コーナーを運営し、来場者と交流しました。

イオンで子どもの福祉機器フェスティバル
G20サイドイベントで　ボッチャ体験も

ボッチャを体験する子どもたち

障害児向けの車いすなどの福祉機器を紹介する「第8回子どもの福祉機器フェスティバル in 岡山」が10月19日、イオンモール岡山（岡山市北区下石井）5Fおかやま未来ホールで開かれ、旭川荘療育・医療センターでリハビリを受けている親子などでにぎわいました。

フェスティバルは旭川荘療育・医療センターの理学療法士（PT）らが中心になって、岡山県理学療法士会とともに2012年から毎年開催。今年は岡山市内で19、20日に行われた日米欧と新興国による20カ国・地域（G20）保健大臣会合のサイドイベントの一つとして行われました。

車いすやバギーなどが並ぶフェスティバル会場

会場にはメーカーや販売会社など20企業が集まり、歩行器やベッド、吸引機など障害のある子どもたちの生活をサポートする機器を展示。来場者は気になるブースを訪れ、担当者の説明を聞きながらバギーや抱っこ紐などを試していました。

企画したPTの木戸敬典さんは「県内で子ども用の福祉機器がこれだけ集まる機会は少ない。実際に手に取って、業者さんから直接話が聞けるので、お母さんたちにも安心してもらえる」と話します。

また、1Fの未来スクエアでもG20サイドイベントの一環でパラスポーツ「ボッチャ」の体験ブースが設けられ、家族連れが“対戦”を楽しんでいました。

せとうち旭川荘10周年記念誌完成

開所からのあゆみをまとめた10周年記念誌

昨年10周年を迎えた「せとうち旭川荘」がこのほど10周年記念誌を製作し、関係施設へ配布しました。

せとうち旭川荘は生活介護と就労継続支援B型、短期入所の多機能型通所事業所として2008年10月に開所。その後、グループホームや相談支援事業所を開設するなど、障害のある人たちが地域で安心して暮らせるよう各種サービスを展開してきました。

記念誌では「10年のあゆみ」を年表や開所当時の新聞記事などを交えて解説。日中活動やイベントに参加する笑顔あふれる利用者の写真を多数掲載し、切り絵作品やシルクスクリーンで仕上げたてぬぐいなどの製品は「アトリエせとうち工房」の“アートと手しごと”として紹介しています。

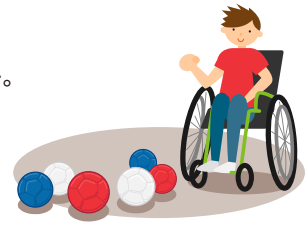
巻末には家族会副会長の佐々木真佐恵さんと顧問で初代所長の野崎一正さん、二代目所長の小林由典さん、三代目所長で現所長の笠原佳子さんによる座談会を収録。開所に至る経緯や当初の苦労などを振り返っています。

A4版オールカラー、28ページで300部製作。問い合わせはせとうち旭川荘（0869-34-6606）。

えいごde福祉 ～生活表現～ 30 最終回

参加する

今年も早いもので11月。今年最後の「旭川荘だより」です。来年はいよいよ東京オリンピックが開催される年です。オリンピックと言えば近代オリンピックの基礎を築いたピエール・ド・クーベルタンの「重要なのは勝つことではなく参加することである」という言葉を思い出します。この場合の「参加する」はtake partが使われています(注)。ICF(国際生活機能分類)の概念図に出てくる「参加」はparticipationです。



Will you take part in the boccia games？　あなたはボッチャの競技会に参加しますか。
social involvement　社会参加
inclusive society　共生社会
participate in community activity　地域の活動に参加する
women's labor force participation　女性の労働参加
full participation and equality　完全参加と平等

手続きとしての「参加申し込みをする」はapplyが使われるようです。
I applied for the medical welfare seminar in September.
わたしは9月の医療福祉セミナーに参加申し込みをしました。

さて、長らく連載してきた「えいごde福祉」は今回で30回を迎え、ここでひとまず筆を置くことになりました。浅学の筆者に対して、より深い知識を教えて下さった方や、「読んでますよ」とお声掛けくださった関係機関の方の声に支えられて書き続けることができましたことをお礼申し上げます。

(注)クーベルタン本人の言葉はフランス語だったようで、take partは原語の英訳として使われています。

(終わり)

(広報委員・総合研究所医療福祉センター　後藤祐之)

リレーコラム

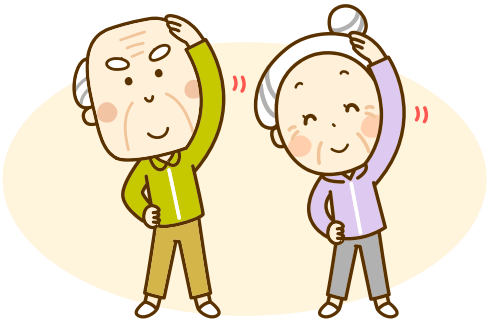
鬼北町最高齢者お祝い

いま、日本は超高齢化社会に突入しています。今後も高齢者の割合は増えていくと予想されていて、毎日のように「高齢化」という言葉をテレビのニュースなどで耳にするようになってきました。私の住む愛媛県鬼北町も高齢者の人口割合が増えてきています。75歳以上にあたる後期高齢者の割合が24.6％とかなりの割合を占めています。その中で鬼北町のニュースを紹介させていただきます。

鬼北町立北宇和病院の療養病棟に入院中の女性の患者様が今年、108歳を迎えられました。108歳は鬼北町の最高齢者ということで、敬老の日を前に9月5日、患者様のご家族(子ども、孫、ひ孫、玄孫)、北宇和病院スタッフ、鬼北町職員から入院されている病室でお祝いされました。鬼北町を代表して兵頭誠亀町長から「また来年も109歳をお祝いしに来ます、1年間元気でいてください」と激励の言葉とともに、表彰状と記念品が手渡され笑顔で受け取られていました。

108歳という年齢ですが、毎日元気で過ごされていて私たち職員も来年の109歳のお祝いを楽しみにしています。明治から大正、昭和、平成、令和と5つの時代を生き抜いてこられ、これからの令和の時代も元気で過ごされることを願っています。

(広報委員　青儀修平)



岡山、玉野できらぼし★アート展 旭川荘利用者の20作品も紹介

障害のある人たちの芸術作品の展覧会「きらぼし★アート展」(岡山障害者文化芸術協会、同展実行委など主催)が9月から10月にかけて岡山と玉野の2会場で開催されました。旭川荘の利用者が制作した20の作品も展示され、来場者の目を楽しませました。

坂本奈美子さんの水彩画(写真上)はバナーに印刷され、アーケードを彩った＝表町商店街

同展は2017年に始まり3回目。今回は205点の応募作品から一次審査を通過した絵画50点、造形17点、写真15点を展示。旭川荘からは、坂本奈美子さん(いんべ通園センター)の水彩画など絵画9点、造形6点、写真5点が選ばれました。

店先に並べられた絵画＝表町商店街

展覧会は岡山市中心部の商店街を会場にした「表町・街なか美術館」(9月27日から10月3日)からスタート。アーケードには優秀作など21点を印刷したバナー(垂れ幕)11枚を吊るし、協賛店の店先にはイーゼルに架けた絵画を設置。自由な発想から生まれた個性豊かな作品が商店街を行き交う人たちの目を引いていました。また、商店街では吉備ワークホームによるイノシシ革の小物を作るワークショップもあり、若者や親子連れが参加しました。

この後、玉野市産業振興ビル(玉野市築港)に会場を移して、10月5日から14日まで開催。5、6日には表現活動の法的保護、アールブリュットなどをテーマにしたセミナーやシンポジウム、作家によるライブペイントなども行われました。

作品は玉野でも展示＝玉野市産業振興ビル

旭川荘理事会・評議員会報告

令和元年度第3回理事会を10月16日、第2回評議員会を同30日、いずれもホテルグランヴィア岡山(岡山市北区駅元町)で開催しました。

理事会では、6件の議案と2件の報告案件が審議され、令和元年度主要事業の状況、令和元年度第1次資金収支補正予算、基本財産の処分の3件の議案と1件の報告案件を評議員会に提出することが承認されました。

評議員会では、いずれの案件も原案どおり承認されました。

また、評議員の井手紘一郎氏が8月31日付で退任されました。

ライオンズクラブよりタオルの寄贈 3840枚26施設で活用

岡山せとうちライオンズクラブ(LC)など5団体から10月8日、タオル3840枚を寄贈していただきました。今回で12回目となります。

タオルの寄贈は2009年に岡山ひかりLCが始め、2回目以降は岡山操山LC、岡山京山LC、岡山中央LCも参加。2016年からは岡山せとうちLCも加わり5LCで継続しています。今回はこれまでより240枚多く届けていただきました。

旭川荘資料館で行われた贈呈式には各LCより代表11人が出席し、末光茂理事長へタオルを手渡しました。末光理事長は「タオルは赤ちゃんからお年寄りまで皆が使うもの。何より継続して寄贈いただけるのがありがたい」と感謝を述べました。

タオルは本部のある祇園地区をはじめ備前、備中、ひらた、愛媛支部の26施設へ配布し使用させていただきます。

末光理事長(中央)へタオルを寄贈するLCの皆さん

旭川荘ごよみ
SCHEDULE CALENDAR

11月

2日	やまびこまつり	南地区
2日	ひらた旭川荘秋まつり	ひらた旭川荘
8日	旭川荘創立記念式典(永年勤続表彰式)	旭川荘
9日	秋の清掃活動	祇園地区
10日	ティーボール交歓大会	旭川療育園
17日	秋の清掃活動	ひらた旭川荘
25日	アートギャラリー展表彰式	旭川荘
28日	グラチア音楽賞授賞式	旭川荘
	☆旅行	～各施設

12月

3日～6日	ふくのいち－旭川荘写真・作品展－(川崎医科大学総合医療センター)	旭川荘関連施設
8日	家族会等連絡協議会役員会・懇親会	旭川荘
12日～13日	旭川荘医療福祉学会	旭川荘
14日～15日	ふくのいち in kiitos(宮脇書店総社店)	旭川荘関連施設
	☆クリスマス会・忘年会・餅つき	～各施設

編集後記

今回でえいごde福祉の連載を無事終えることになりました。英語そのものよりも、時事ネタや季節の話題とどう関連づけて「読み物」としての原稿を作成するかの方が大変だったような気がします。連載を読んでくださった皆様ありがとうございました。

(広報委員　後藤祐之)